

中割校区「地域づくりアンケート」回答結果

(2022年アンケート)

【分析結果】

「質問1の項目」(校区での生活の困りごと)から浮かび上がった校区の姿は、次のようである。「家と地域社会」「地域共同体」「生活と生計」の3つの要素が、相互に悪循環サイクルをなしている。

第1の「家と地域社会」は、「継承の危機」にある。家族・親族を主体とした家と地域社会の継承ができなくなっている。

第2の「地域共同体」は、「解体の危機」にある。学校・集落の地域共同体が、解体の方向に傾きつつある。

第3の「生活と生計」は、「消滅の危機」にある。地域住民の生活と生計を支える産業が少ない。これらによって立つ基盤には、2つの側面がある。

一方は「交通手段」で、「不便」である。交通手段の利便性が悪く、望む行動が制約される。もう一方は「防災対応」で、「手薄」となっている。道路基盤整備を含めた交通災害・自然災害に対する防災が手薄である。

以上のように、現在の困りごとをそのまま放置すると近い将来、校区の地域社会の存続が危ぶまれる状況におかれていることが、浮かび上がった。

【「その他」欄記入意見】

校区で生活するなかで、どのお困りごとがありますか？
「質問1の項目」から浮かび上がる校区の姿

中割校区：全体集計

2

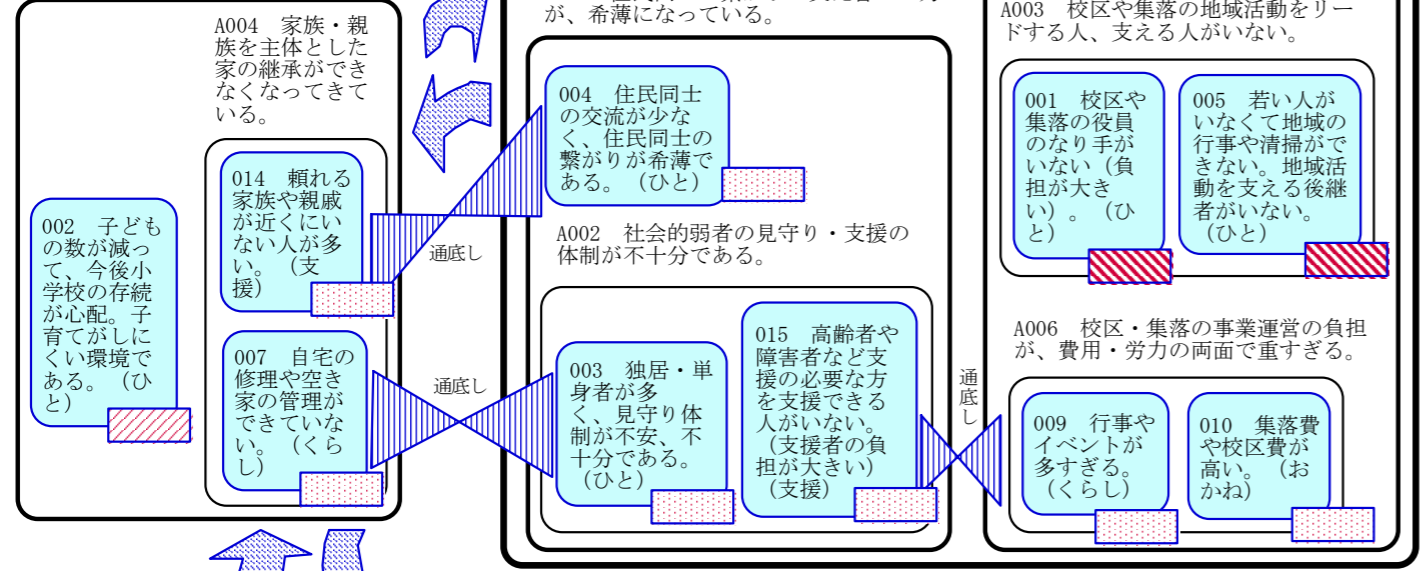
地域共同体：解体の危機

C001 学校区・集落の地域共同体が、解体の方向に傾きつつある。

1

家と地域社会：継承の危機

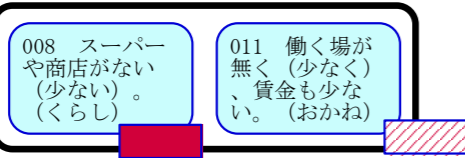
B003 家族・親族を主体とした家と地域社会の継承ができなくなっている。



生活と生計：消滅の危機

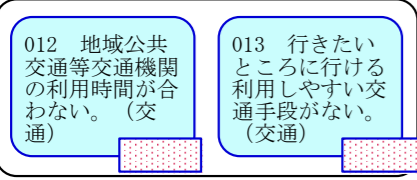
C002 地域住民の生活と生計を支える産業が少ない。

3



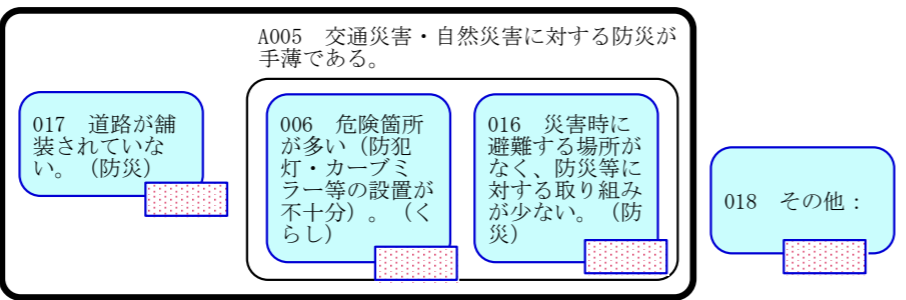
交通手段：不便

A001 交通手段の利便性が悪く、望む行動が制約される。



防災対応：手薄

C003 道路基盤整備を含めた交通災害・自然災害に対する防災が手薄である。



■アンケート集計結果

ランク	得点幅	模様
A	52.1~65	[Red]
B	39.1~52	[Red/White Stripes]
C	26.1~39	[Blue/White Stripes]
D	13.1~26	[Blue]
E	0.1~13	[White]

(最高得点：64.7点)
(回答者数：50人)

- (1) 2021年7月7日
- (2) 情報工房
- (3) 校区アンケート「質問1」の質問17項目
- (4) 山浦晴男

注1) 文頭の数字は、質問項目の番号を示す。
注2) 文頭のアルファベットは、階層構造の段階を示す。
注3) 左上の丸数字は、分析結果の解説のストーリーの流れを示す。